



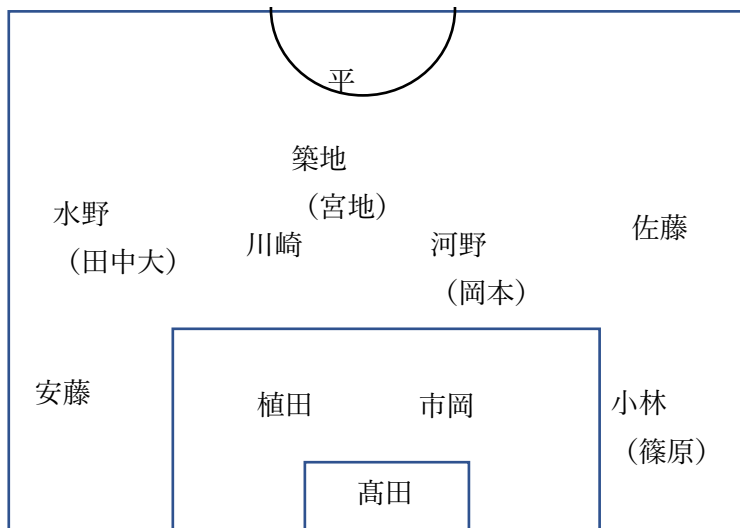
試合結果

$$\text{丹羽 } 1 \begin{bmatrix} 0 - 1 \\ 1 - 0 \end{bmatrix} 1 \text{ 尾北}$$

4月10日以来、途中に総体予選が行われたものの2ヵ月半ぶりのリーグ戦である。お互いが学期末考査のために、十分な練習ができない中で、コンディションを調整して試合に臨んだ。

さらに、前夜の雨によりやや柔らかめのグラウンドは湿度が高く、選手にとっては過酷な条件となった。丹羽高校としては、総体予選で、敗北を喫した尾北高校に、何としても一矢報いたい一戦だ。

しかしながら、前半4分、丹羽は、相手側ピッチ内センターサークル付近で、攻撃態勢に入ったにもかかわらずFWの連係ミスからボールを奪われ、尾北左サイドにスループスを通され、失点を喫した。練習不足ためか、その後はお互いにボールが足につかない様子で、パスの繋がらないゲーム展開が続いたが、丹羽は、後半20分に途中出場した岡本を起点とした攻撃が功を奏し、岡本 — 川崎と繋がったパス



が佐藤に渡り、ボールを受けた後、反転して左足で放ったシュートが相手 GK の両手を弾き飛ばしてゴール内に転がった。得意の右足に持ち替えていたらゴールは生まれかっただであろう。流れの中での素早い動きを意識した佐藤のゴールは、賞賛に値する。結果として、丹羽はやや劣勢であったゲームを引き分けて終えることができた。

試合全体を通して、丹羽のプレーを振り返ると、かねてから課題となっていたヘディングの技術が大幅に向上しており、特に DF の 4 名はロングボールの競り合いに終始優位に立つことができた。しかし、選手間の意思の疎通を欠いており、せっかくの好機をものにできず、奪ったボールを安易に相手チームに渡してしまう場面が目立った。普段から周囲の状況を見ながらプレーするとともに選手同士がコミュニケーションをとりながらプレーする習慣を身に着けることにより大きく成長すると思われる。

しかし、これは、毎日の練習姿勢の改善と積み重ねに負うところがおおきいので、12 月の新人戦あたりまでに、生まれ変わった姿を見せてくれることを期待したい。

(文章 部長：若原)